

常なる磐

つねなる いわ season II

令和 4年 2月 4日(金)

その3

◇ データで見る「岡崎市の新型コロナウイルス感染症」③

2月1日(火)の岡崎市が発表した新型コロナウイルス感染者数は386人。

2	3	4	5	6	7	8
2	0	0	5	8	17	26
9	10	11	12	13	14	15
17	16	21	54	53	73	53
16	17	18	19	20	21	22
37	53	95	126	137	100	176
23	24	25	26	27	28	29
80	134	200	158	239	252	257
30	31	2月1日	2	3	4	5
223	224	386				

ちょうど4週間前の0人からここに至るまで、表にしてみると、その激増ぶりがよく分かる。

約387,000人が住む人口比にしてみると0.1%。医療ひっ迫による歪が懸念される^{ひずみ}ところまできた。

この「386」の数字を紐解いたのが、下の表とグラフである。

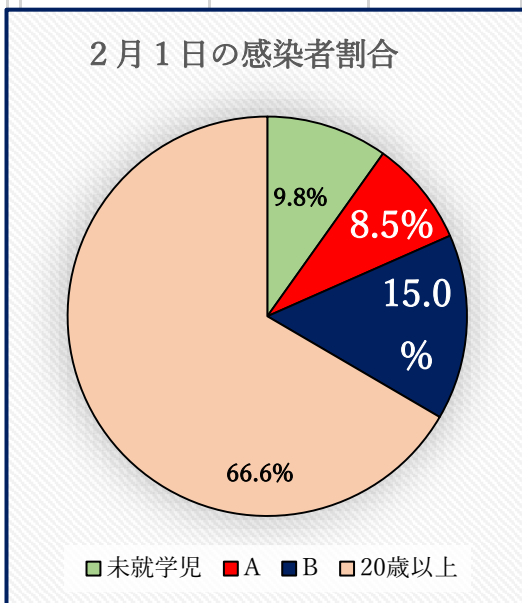
2月1日(火)のデータ		
	人数	割合
未就学児	38人	9.8%
A	33人	8.5%
B	58人	15.0%
20歳以上	257人	66.6%
	386人	

<AとBについて>

岡崎市の発表する「年代」と「職業」から4つに分類したのが左の表である。

年代は「10歳未満」、「10歳代」、「20歳台」…という表記で分類されており、「10歳未満」のうち職業欄の「未就学児」と「学生」で分類した。

よって【A】は「10歳未満の学生」、【B】は「10歳台(大半が学生)」となる。



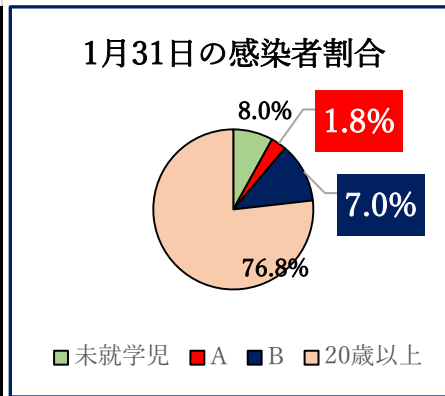
つまり【A】は、「小学校1年生と2年生、さらに2・3月生まれを除く3年生」であることが読み取れる。3か年となれば、ほぼ小学生の半分だ。

【B】は中高生や大学生等も含まれ、このデータからの小学生の割合の読み取りは難しいが、【A】と同等数の可能性が高い。

そう考えると小学生の割合は 8.5×2 で17%。全世代を対象とした場合、たった6か年のこの数値は、かなり高いと言える。

数値の標準化を図るために、前日 1 月 31 日（月）のデータを解析してみた。

	人数	割合
未就学児	18人	8.0%
A	7人	1.8%
B	27人	7.0%
20歳以上	172人	76.8%
	224人	



結果は、前日と全く異なる。

20 歳未満が感染者の 1 / 4 (25%) を占めるという既報があったが、それに近い結果である。

対して 2 月 1 日は、20 歳未満が 35% と大きく上回る。確実にウイルス感染が子供たちに迫ってきていることを物語っている。

もう一度、話を市全体の感染者数に戻そう。

2 月 1 日のデータ、市民の 0.1% は、たった一日の結果であるということ。感染が急速に拡大し始めた 1 月 12 日から 2 月 1 日までの 21 日間の感染者数の合計は 2,724 人。つまり、この間の人口比は 0.7%。150 人に一人の割合である。

今、周りを見渡してみても、マスクをしない方を見かけるのはほとんどないし、店舗の入り口にある消毒は多くの方が積極的に利用している。これらのことから、各々が気をつけて生活していることはよく分かる。

これらの状況から、どんなに気をつけて生活していても、誰もが感染する状況にあると言い切ってよいだろう。

対策の最善策は、行ってきたことを徹底して継続すること。

まずは、①「マスク装着」。

鼻をマスクから出す、いわゆる「鼻マスク」の児童は、最近は、ほとんど見かけなくなった。ひとえに、家庭教育のおかげである。

マスクをしていない状態と何ら変わらない「鼻マスク」は、禁止を徹底したい。

情報によれば、「布マスク」よりも「不織布マスク」の方が効果は高いとのこと。マスクを重ねる「二重マスク」も、顔に接触する側を「不織布マスク」にすることで、さらに効果は高まるそうだ。

続いて、②「手洗い」と「手指消毒」。

学校生活・家庭生活で子供たちの習慣となっている「手洗い」と連続した「手指消毒」の徹底を今後もお願いしたい。